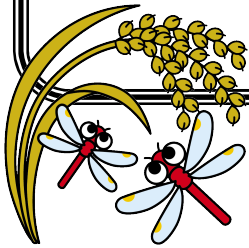


学校だより

10月

<http://www.ed2.city.yamato.kanagawa.jp/s-chu/>

自助「まず先に自分を守る」

校長 吉田 美佳

西門付近で数匹のとんぼを見かけました。日中はまだまだ暑い日がありますが、朝夕は涼しくなり長袖で登校する児童も増え、ゆっくりと近づいてくる秋を感じています。

台風シーズンの9月は各地で水害や土砂崩れの報道を耳にし、心が痛みます。大和市でも20日(火)に大雨警報が発令され、登校が2時間遅れとなりました。教職員は児童が登校するまでに、校舎内外のライフラインや被害状況、学校周辺の倒木・水没等の安全確認を行いました。幸い学校内に大きな被害は見られず、登校後も安全に3時間目からの授業を開始することができました。また、登校ルートを見回った職員がケーブルの破損を見つけたため、市役所に報告して修理改善をお願いし、児童が触らないよう下校時にも見守りを行いました。

自然災害の発生を防ぐことはできませんが、日頃の備えて被害を減らすことはできます。本校では9月1日の防災の日に、シェイクアウト訓練を実施しました。

シェイクアウトは、アメリカで2008年に始まった新しい形の地震防災訓練です。地震発生を想定し、一斉にそれぞれの場所で「1:DROP!(まず低く!)、2:COVER!(頭を守り!)、3:HOLD ON!(動かない!)」等の安全確保行動をとる「自助」の取組みです。神奈川県では、防災意識の向上に向けた「かながわシェイクアウト」の普及啓発をすすめており、本校でも5時間目に全学級一斉にシェイクアウト訓練を実施しました。



2016年4月に震度7の大地震を経験した熊本県民の過半数以上の人が、その大きな揺れに対し「何もできなかった」と回答しています。大きな揺れになってからは、机の下にもぐることも、安全



な場所へ移動することも難しい状況になります。小さな揺れの時に直ちに反応し、安全行動をとるようになっておく必要があります。地震災害から「いのち」を守るためには、自らの身は自らで守る「自助」が重要です。シェイクアウト訓練で安全行動を意識的に行うことは、必ずいざという時に活かされると思います。

防災の日を意識している人は全体の約14%とも言われています。天災が多い国である日本に住む私たちにとって、災害について常日頃から知覚し、対処する心構えと準備が大切です。9月20日に、中央林間小学校避難生活施設運営委員会に出席しました。内山・中央林間北・つきみ野スカイハイツ・市役所市民相談課・危機管理課・中央林間小学校の各代表や防災担当者が、地震災害時における避難生活施設の運営方法について協議しています。今年度第2回目の委員会では、令和3年度より学校防災マニュアルが改定されたことを受け、避難生活施設運営マニュアルの見直しを行いました。災害は、家にいるときに遭うとは限りません。ご家庭でも、4月に学校から配付しました「緊急時における児童の登下校について」をお子さんと一緒に確認するなど、防災について話し合っただけであればと思います。